

足首のねんざが長引いている、ねんざをくり返すようになってしまった、かかとの痛みがおさまらない、外反母趾の治療を受けたい……。そんなときの専門外来が「足の外科」です。

「足の外科」は足のけがや病気の専門科

骨や関節などのけがや病気を扱う専門科が整形外科です。ひと口に整形外科といっても、その守備範囲は広い。ため細分化し、肩関節や股関節などの病気やけがの専門医がいたり、スポーツ整形外科、脊椎外科や手の外科などもあります。そのなかで、足裏、足ゆび、かかと、足首など足に関するけがや病気を全般的に専門的にみるのが「足の外科」です。

そのなかでもどんな分野があるかという①体重がかかって、歩くときなどに足に痛みがある病気やけがなどの異常②加齢による足の病気③糖尿病やリウマチ、痛風など全身的な病気にかかわる足の異常④スポーツ整形外科で扱うけがや病気で足に関するもの⑤靴にかかわる足の病気、などに大きく分けられます。足のけがや異常、といっても実際には非常にたくさんあります（左頁表参照）。

足のけがをこじらせたときなどは足の専門科へ

現在、わが国の足の外科専門医は800名程度で多いとはいえません。たとえば、ねんざは足首におこることが多いけがで、湿布して安静にしていればよくなることがほとんどなので、かかりつけ医や身近な整形外科医などで治療を受けるのが普通です。

しかし、ひと口に足首のねんざといっても、いろいろな種類があり、たとえば「前距腓靭帯損傷」などは、専門医でないとなかなか診断がむずかしいものです。スポーツをする頻度の多い人などが完治する前に無理をすると、こじらせたり、ねんざをくり返すようになることもあります。また、こじらせて手術が必要になることもあります。そんな場合は、足の外科の専門医に受診するのが安心といえるでしょう。

そのほか、足のけがで、一般の整形外科でひと通り治療



足の外科専門医はどこにいる？

足の外科に受診したい場合は、必要に応じてかかりつけ医や整形外科で紹介してもらったり、大学病院の整形外科に直接聞いてみるのもよいでしょう。また、井口先生のホームページでは、足の外科に関する情報が掲載されており、もよりの足の外科学会の会員の医師を教えてくださいのコーナーもあります。

井口傑先生のホームページ
慶應義塾大学医学部整形外科足の外科グループ
アドレス <http://www.sc.itc.keio.ac.jp/~inokuchi/>



●指導●
慶應義塾大学医学部
整形外科講師
井口 傑 先生

「足の外科」で扱う主な病気

足の外科で扱う、比較的良好みられる病気をあげました。

アキレス腱周囲炎	アキレス腱周囲の滑膜、滑液包、腱の炎症
開張足	足の横アーチがつぶれ、中足骨骨頭部（足の裏のゆびのつけ根）が痛む
滑液包炎	親ゆびのつけ根の関節の内側のでっぱりと靴がこすれて滑液包が炎症をおこして痛む
外反母趾	ハイヒールや先細の靴を長期間はきつづけたため、親ゆびのつけ根がくの字に曲がり、痛くて靴がはけないこともある
踵骨棘	かかとが痛み、X線写真にかかとの骨の下面に三角形の骨の棘がうつる。本当の痛みの原因はゆびの屈筋の付着部の炎症
槌趾（ハンマートウ）	ゆびのつけ根の関節が背屈し、指先から2番目の関節がでっぼって固まる。タコができて痛む
足根骨隆起	足の甲にでっぼった足根骨が靴にあたって痛む
パンプ・パンプ	ハイヒールをはく女性のアキレス腱付着部にできる、靴による大きなタコ
内反小趾	外反母趾とは反対に小ゆびが内側に曲がる
扁平足	足の縦アーチがつぶれて、土踏まずが痛む
陥入爪・巻き爪	親ゆびの爪の角が皮膚に食い込んで痛む
変形性足関節症	足関節が変性して軟骨が消失し、痛む
モートン病	足ゆびの間に痛みのある神経のタコが発生する病気。神経腫といわれるが本当の腫瘍ではない

が終わった段階でも、まだ痛みがあったりして生活に支障をきたしているときは、足の外科への受診を考えてみるとよいでしょう。足のけがや病気で「手術が必要」などといわれて、セカンドオピニオンがほしいときも、足の外科への受診が考えられます。

クリニック特集
ご存じですか？
こんな病気の
専門外来

足のあらゆるけがや
病気のエキスパート

「足の外科」